

救急医学

責任者・コーディネーター	救急医学分野 井上 義博 教授		
担当講座・学科(分野)	救急医学分野、岩手県高度救命救急センター		
担当教員	井上 義博 教授、山田 裕彦 特任准教授、鈴木 泰 講師、藤野 靖久 講師、照井 克俊 講師、大間々 真一 特任講師、小鹿 雅博 特任講師、小守林 靖一 助教、中館 俊英 非常勤講師		
対象学年	4	区分・時間数	講義 13.5 時間
期間	前期		

・学習方針（講義概要等）

生命を脅かす傷病は突然人々を襲う。外傷や中毒、心筋梗塞や脳卒中など短時間のうちに人の命を奪っていく。重症度の高い傷病者に対して、刻々と変化する病態に対応して速やかに適切な診断、そして処置を行う能力を学習しなければならない。さらに、応急処置にのみとらわれず科学的根拠に基づいた治療を目的とし、必要な知識と思考力を養うことが重要である。

・教育成果（アウトカム）

医療人としての全人的人間性を持って、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る謙虚な態度を持ちながら、医師国家試験出題基準に定められた救急医学の知識・技能・態度を学修することによって、緊急性の高い患者に対する迅速な診療の習得に到達する。（ディプロマ・ポリシー：1，2）

・到達目標（SBO）

発熱、頭痛、腹痛などの一般的な症状、ショック、意識障害、呼吸困難などの重篤な症状を通して症候論的に思考し、的確な鑑別診断ができる。緊急度の高い重症患者では、緊急処置が診断と同時進行か、時には診断に先行しなければならない。気管内挿管、除細動、輸液、中心静脈路確保、胸腔ドレナージ、緊急薬品使用などの説明できる。各種診断書の書き方、感染症新法、食品衛生法、麻薬取締法、各種届出義務など救急医療関連法規についても説明できる。

・ 講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/7	金	3	救急医学分野	井上 義博 教授	救急医学概論
4/7	金	4	救急医学分野	井上 義博 教授	急性中毒、環境異常
4/14	金	3	岩手県高度救命救急センター	小守林 靖一 助教	頭部外傷
4/14	金	4	救急医学分野	藤野 靖久 講師	吐血・下血、異物誤飲
4/21	金	3	救急医学分野	鈴木 泰 講師	腎損傷、腎不全
4/21	金	4	岩手県高度救命救急センター	小鹿 雅博 特任講師	急性腹症、腹部外傷、胸部外傷、多発外傷、ショック
4/28	金	3	岩手県高度救命救急センター	照井 克俊 講師	ショック、心肺蘇生法
4/28	金	4	救急医学分野	中舘 俊英 非常勤講師	呼吸不全・溺水、誤嚥
5/12	金	3	救急医学分野	山田 裕彦 特任准教授	広範囲熱傷
5/12	金	4	救急医学分野	大間々 真一 特任講師	意識障害・痙攣

・ 教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	標準救急医学 5 版	有賀 徹 編	医学書院	2014

・成績評価方法

試験成績により評価する。

・特記事項・その他

救急医学概論および救急疾患の診断・治療に関する総論的領域と症候を中心とした領域に大別する。

1. 総論的領域

- (1) 救急医学概論：救急医療体制、搬送、情報、災害救急、救急関連法律など
- (2) 救急医療総論：鑑別診断、検査・処置、心肺蘇生、緊急薬品、呼吸・循環管理、体液管理、多臓器不全、DIC、SIRS

2. 症状を中心とした領域

- (1) 侵襲と生体反応・ショック
- (2) 意識障害・痙攣
- (3) 呼吸困難
- (4) 心臓発作・不整脈
- (5) 腹痛
- (6) 吐・下血
- (7) 多発外傷
- (8) 熱傷
- (9) 中毒
- (10) 自然環境障害（熱中症、減圧症、低体温など）
- (11) 異物誤飲・誤嚥
- (12) 小児科救急 *時間的制約で消化できない分野は第5学年の臨床実習の小講義で補足する。

シラバスに記載されている内容及び各回に配布・提示される教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			